



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 34 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

捲土重来

東北支部長 若井 正一

時が経つのは早いもので、東北地方に未曾有の被害を与えた「東日本大震災」から3年が経ちました。「石の上にも3年」という諺がありますが、被災地の復旧・復興は、いまだ緒に就いたばかりで、多くの被災者が仮設住宅などで非日常的な暮らしを強いられています。特に、東京電力福島第一原発事故による被災者は、故郷へ帰還できない状況が、長期間続くことが懸念されています。

その中で、昨年5月の本学会会長選挙において、東北支部に所属する吉野博先生（東北大学名誉教授）が当選して、第53代会長に就任されたことは、真に慶賀にたえません。東北支部から会長が選出されたのは、日本建築学会が1886年（明治19年）に創立されて以来、130年近くの長い歴史において初めてのこととなります。

吉野先生が会長に就任される直前、前会長の和田先生から、学会本部の事務局関係者と被災各地を視察したいとの連絡があり、東北大の小野田先生のコーディネートにより宮城、岩手の三陸津波被災地を1泊2日の強行軍で巡回しました。その参加者は、和田前会長、吉野会長、学会事務局約20名、それに東北支部長が同行しました。その視察ルートは、最初に名取市の閑上地区の被災地を

スタートに貸し切りバスで、石巻、南三陸町、気仙沼、陸前高田、そして最後は釜石まで北上して、主に津波で被災した海岸線の地域の現状を視て回りました。被災地の瓦礫は、かなり片付いていましたが、家屋の土台だけが残る何も無い広陵とした風景は、津波災害の恐ろしさを改めて実感するばかりでした。特に、海岸からかなり離れた場所にある「大川小学校」跡の悲劇の現場では、なぜ、すぐ近くの裏山に逃げられなかったのかと、人間のはかなさと空しさを痛感しました。被災各地の復旧・復興が、一刻も早く進展することを祈念する視察でした。

新年度は、本学会会長を輩出する支部として、学会本部との連携を強化するとともに、東日本大震災の被災各地に対する支援活動を継続いたします。特に、本年度は、特色ある支部活動企画事業として「東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた、教育機関と設計実務界をつなぐ教育プラットフォームの構築」が実施されます。また、恒例の支部研究報告会は、「みちのくの風2014 福島」として、日本大学工学部（郡山市）を会場に6月21日（土）～22日（日）に開催いたします。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

もくじ

○巻頭言	1
○企画記事	2
○第34回東北建築賞（作品賞）選考報告	3
○第34回東北建築賞（研究奨励賞）選考報告	7
○第24回東北建築作品発表会報告	7
○第33回東北建築賞表彰式及び展示会報告	7
○2013年度設計競技東北支部審査報告	7
○2013年度東北支部研究報告会報告	8

○2013年度日本建築学会東北支部総会報告	8
○作品選集2014 東北支部選考経過報告	9
○研究部会活動報告	9
○支所だより	12
○支部役員会から	15
○支部役員名簿	16
○2013年度事業報告	17
○2014年度事業計画（案）	19
○法人・賛助会員名簿	21

企画記事

「みちのくの風2013 岩手」開催報告

常議員（総務企画） 速水 清孝

「みちのくの風2013 岩手」は、2013年6月22日（土）・23日（日）の両日にかけて岩手県盛岡市の「岩手県公会堂」（国登録有形文化財、完成：1927年、設計：佐藤功一）で開催された。今年度は、第76回東北支部研究報告会・招待講演・パネルディスカッション・第33回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会と両日を通してのパネル展示会を行った。それらの概要を以下に記す。

まず、第76回東北支部研究報告会は、発表題数83題、発表会参加者数は延べ139名（22日72名、23日67名）であった。これらの発表論文は、日本建築学会東北支部研究報告集第76号構造系ならびに同計画系の2分冊として刊行された。

招待講演は、6月22日（土）に、計画系講演として赤坂憲雄氏（学習院大学）による「東北学からの証言—地域再生の手がかり—」と題する基調講演と、それを受けたパネルディスカッションが赤坂氏・三宅諭氏（岩手大学）・倉原宗孝氏（岩手県立大学）によって74名の参加者を前に行われた。また、翌23日には、構造系講演として坂本知也氏（太平洋セメント株式会社）が「大船渡工場の震災から復興までの道のりとセメント工場の役割」と題し、52名の参加者に対して講演された。

第33回東北建築賞表彰式は6月22日行われ、それぞれの受賞者が記念講演を行った。参加者は約80名であった。

パネル展示会には、22日・23日の期間中、建築賞作品賞6点と法人会員による技術報告・JIA岩手会員の作品を展示し、延べ150名の来場者があった。

なお、22日夕刻、同会場内で懇親会を開催した。支部研究発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら59名の出席を得て、登録有形文化財のホールが醸し出す豊かな雰囲気を楽しみつつ親交を深めた。おわりに「みちのくの風2013 岩手」の開催にあたりご尽力いただいた岩手県、岩手支所をはじめとする関係各位に謝意を表し、報告とする。

災害調査委員会活動報告

委員長 田中 礼治
（東北工業大学名誉教授）

東日本大震災から3年が経とうとしている。その間、東北支部災害調査委員会では、災害調査を継続して行っており、その成果をこれまで日本建築学会「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報（2011年7月）」、「シンポジウム 東日本大震災からの教訓 これからの新しい国づくり（2012年3月1日～2日）」、および「東日本大震災2周年シンポジウム（2013年3月27日～29日）」などに報告してきた。さらに、東北支部として、2013年5月に「日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告」を出版し、宮城県建築物等地震対策

推進協議会と共催でシンポジウムを開催し、学会の調査を広く知ってもらう機会を設けるなどの活動を行ってきた。

東日本大震災では、津波により建築物が大きな被害を受けた。津波後の調査によると、多くの建築物が津波に流されずに残留しているのが見られた。このことは、津波の被害は建築技術の進歩と大きく関わっていることが分かる。大きな津波と建築被害のデータとしては、昭和8年（1933年）の三陸大津波の記録がある。津波被害が建築技術の発展と大きく関係していることを考えると、これからの津波と建築被害を論ずる場合には、東日本大震災でのデータが重要になる。

そこで、東北支部災害調査委員会に新しく「津波被害調査WG」を設け、津波に強い建物づくり、まちづくりなどに活用できるようなデータ収集を行うことにした。成果については、シンポジウムなどを開催し、広く情報を伝えていくつもりである。

東北支部山形支所 2013年度「親と子の建築講座」活動報告

山形支所長 相羽 康郎

●東北支部山形支所

日時：2013年9月20日 14:00～15:30

場所：山形県西川町西川小学校

対象：同小学校5年生2クラス合同および一般希望者

JIA協力のもと西川町西川小学校で実施した。親子一緒に難しい状況で、校舎建て替え間もない学校ならば関心が高まっているはずの建築に関わる情報を伝え、親にもその話を伝えてもらう意図により、小学校の授業時間（40分授業2コマ）内で行った。



グラウンドから見た外観



プロポーザルコンペのパース

1 コマ目 「西川小学校のできるまで」：安達和之（羽田設計事務所）

ところどころクイズ形式で答えてもらう方法で、建築家という職業を説明、全国で建築家の数はどのくらい？この建物の建設費は？この建物建設の大工さんの延べ人数は？等の内容である。雪や日照や街並みなどを考え、軒下空間を設け、街並みに合わせて全体に高さを抑えて遠くから見えるように塔がある。木造で町内産の木材を内装等に活用している。プロポーザルコンペ時のパースが提示され、学校関係者との話し合いで変更された点も説明された。質問、意見が多様で、プロポーザル計画案の絵の雰囲気良かったという指摘もあった。

2 コマ目 「まちの建築・目印建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）

地の建築としてまちの建築があつて縄文時代以来の伝統的な構法を継続している。近代建築は図の建築としてRCの箱から鉄とガラスの箱へ、さらに自由な形態の作品として創作される。江戸期日本中の街並みは、地の建物群が揃いの景観を形成した。近代以降地の建築は揃いを失ってしまったが、近年現代建築による街並み形成事例が出現した。これらの街並み写真を比較して最後にどんな街並みのまちに住みたいか挙手を求めた。ゆとり教育の成果か、質問・意見へ積極的な挙手があり鋭い指摘に驚いた。家に帰って親と話をしてくれたか確かめていないが、親と話して欲しいことを提案していく方法を今後考えたい。



講義スライドの中身

第34回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 坂口 大洋

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 8点
- ・一般建築物部門 18点
- 計 26点

2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2013年9月18日(水)
13:30 ~ 14:30

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2013年10月5日(土)
10:00 ~ 16:00

於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター
第24回東北建築作品発表会において応募26作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

- (3) 第1次審査会 2013年10月5日(土)
16:15 ~ 18:00

於 せんだいメディアテーク2階会議室
東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、約半数の10~12作品を選定するため、発表された作品につい



講義中の様子



住みたい街並みのまちへの挙手

て部門に関わらず1人9点ずつ投票を行った。その結果から、まず5票以上獲得した10作品を通過作品とした。次に0票の作品を落選とし、1票と2票の作品について投票した委員より意見を伺った上で審議し落選とした。得票数が3票と4票の作品について議論し4作品を通過作品に加えた。

以上の結果、小規模建築物部門6点、一般建築物部門8点の合計14点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された14作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2014年1月26日(日) 13:00~17:00

於：日本建築学会東北支部会議室

小規模建築物部門ならびに一般建築物部門について、1作品ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑や審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行い、1人6作品以内を投票した。まず0票、1票の作品については落選とした。10票を獲得した1作品、次いで8票を獲得した2作品について全会一致で作品賞として選定した。また、7票、6票、5票を獲得した3作品について議論の上、賞に値するとし作品賞とした。4票と3票を獲得した2作品は特別賞とした。2票を獲得した作品について議論を重ねたが、特別賞には至らなかった。以上の審議により、小規模建築物部門については作品賞3作品、一般建築物部門については作品賞3作品とした。小規模建築物部門より1作品と一般建築物部門より1作品を特別賞とした。

(6) 選考結果

作品賞 6点

八乙女の△(デルタ)住宅

【所在地】宮城県仙台市泉区
【設計監理】意匠：(有)都市建築設計集団/UAPP
手島 浩之/武田 幸司
構造：皆本建築工房 皆本 功
【施主】個人
【施工】(株)共栄ハウジング(株)

「地形舞台」-中山間地過疎地域に寄り添う集落づくり拠点-

【所在地】福島県岩瀬郡天栄村湯本字居平6
【設計監理】意匠：(株)はりゅうウッドスタジオ/日本大学工学部浦部智義研究室
設備：(株)エム設備設計事務所/遠山設備設計事務所
【施主】福島県天栄村
【施工】(有)丸大建設

くぼみの家

【所在地】青森県弘前市
【設計監理】意匠：蟻塚学建築設計事務所 蟻塚 学
構造：(株)建築構造研究所 大原 和之
【施工】(有)長谷川工務店

紅梅荘改築整備事業

【所在地】山形県最上郡最上町大字向町73-3
【設計監理】意匠：みかんぐみ
構造：金箱構造設計事務所
設備：オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド
外構：田賀意匠事務所/風土形成事務所/東北芸術工科大学
照明：岩井達弥光景デザイン
【施主】社会福祉法人豊寿会 理事長 吉田 八十八
【施工】建築：大場・北山・鈴木特定建設共同企業体
設備：弘栄設備工業(株)/東北電機鉄工(株)

こども園ひがしどおり

【所在地】青森県下北郡東通村大字砂子又字沢内地内
【設計監理】意匠：(株)計画工房 村上 美奈子
構造：(株)KAP 岡村 仁/桐野 康則
設備：(有)ZO設計室 柿沼 整三
【施主】青森県東通村
【施工】建築：鹿島建設(株)
設備：大成温調(株)
電気：(株)ユアテック
外構：野村建設(株)

まちの工房 まどか

【所在地】宮城県仙台市太白区袋原4丁目37-1
【設計監理】建築：(株)針生承一建築研究所
構造：(有)NEO 建築構造
設備：(株)企画設備計画
【施主】社会福祉法人 円
【施工】建築：(株)阿部和工務店
木工事：(有)山田工務店
電気：大日電気工業(株)
機械：(株)ヨネヤマ設備

特別賞 2点

花壇の立体長屋

【所在地】 仙台市青葉区花壇4番17-305
【設計監理】 大沼 正寛
【施主】 大沼 正寛
【施工】 建築：アトリエ海/奥山 功/大沼 正寛/
東北工業大学安全安心生活デザイン学

科学生有志

設備：富国設備工業（株）
電気：（株）菊電社

えぼか（本宮市民元いきいき応援プラザ）

【所在地】 福島県本宮市本宮字千代田60-1
【設計監理】 建築：（有）阿部直人建築研究所
構造：エーユーエム構造設計（株）
設備：（株）三和設備設計
【施主】 本宮市長 佐藤 嘉重
【施工】 建築：佐藤工業（株）
機械：（株）小山設備
電気：（株）佐々木電気商会

(7) 講評
作品賞

【八乙女の△住宅】

北斜面を造成した振興住宅地に建つ「八乙女のデルタ住宅」は、等高線に沿って通る道路の台地上側に高さ2m以上のコンクリート製擁壁が連続し、台地下側に宅地がー列に並ぶという特異な景観の中にあり、間口に対して奥行きが長く、面積が55坪余りといった建物や庭を計画する上で厳しい敷地条件ですが、建物の平面形を三角形として2つに分割、南側の道路を挟んだ隣地や東西の隣地に対する壁面を、窓のないもの、あるいはプライバシーを確保した窓とすることで、プライバシーに配慮された居室や2階レベルの中庭が確保されています。リビング棟の2階の居間は、北側の高低差や緑地帯を巧みに利用して外部に開かれた最も魅力的な空間となっています。

前面道路に窓のないチャコールグレーの四角い壁のみが面するこの住宅は、住宅地の景観において異質であるものの、無駄を省いたミニマムな建築を検討した結果であり、それでいて豊かな空間を内包しています。仙台市に数多くある新興住宅地の中でも難しい環境条件を見事に活かしており、小規模建築物部門の作品賞に相応しいものと評価します。

【地形舞台】

築100年を過ぎ、10年間空き家になって朽ちかけていた農家が天栄村の交流施設として蘇りました。背景や客席となる斜面と庭による「舞台」、改築時の間仕切りを取り払い、構造的な改良を加えて、シンプルで広い平面とした「土間」、住人の記憶を留める居心地のよい「座敷」からな

っています。村における空き家の活用モデルとして位置付けられており、現在は湯本地域協議会が村から受託し運営しています。集落の住人を対象とした通常の利用に加え、新規に外部者も利用可能な朝市や会津柳津の神楽（県指定無形民俗文化財）などが催されるなど、温泉やグリーンツーリズムなど山間地の魅力を発信する拠点としての期待が高まっています。新たな用途に対応させた結果、改修部分は多いですが、土間の空間性を復旧し、外観や座敷は過去の記憶を留めるなど、用と美のバランスが取れていると言えます。将来的にも「土間」や「座敷」を中心に交流施設としての利用の可能性は高いと思われます。

「地形舞台」は、山間の過疎地において古民家を後世に伝え、場所の記憶を継承しながらも、新たな活用の可能性を示す好例と言えます。集落や地域に与える影響も大きいでしょう。

【くぼみの家】

弘前市内の市街地に建つ本住宅は、2階建ての母屋と渡り廊下とでつながる離れの和室とで構成されています。特徴は開口部のくぼんだ形状。そのくぼみを利用して、通気口、断熱サッシを納め、庇の役目も果たしています。逆に内側に突き出た部分には、パネルヒーター、ロールスクリーン、間接照明がコンパクトに納められています。こうした発想は雪国の内にこもった日が長く続く冬を、少しでも暖かく開放的にしたいという地元設計者ならではの気遣いによるものと思われます。施主のご家族は、30代前半のご夫婦と二人の小さいお子さん。「美術館のような家」という要望から、サッシ枠や笠木の見えないシンプルな箱にし、離れと母屋をつなぐ2階テラスやそこから中庭に続く階段の手すりは、小さい子どもへの配慮よりもデザイン性を重視しています。

若い施主の暮らしを楽しみたいという思いと、若い設計者の柔軟な発想と高い技術とのコラボレーションが生んだ秀逸な作品として評価したいと思います。

【紅梅荘改築整備事業】

本建物は雪深い山形県北部に立つ特別養護老人ホームですが、緩い屋根勾配を持つ平屋とし、大規模な施設を分節し周辺環境によく溶け込む工夫がなされています。雪の処理を考えると、外部に緑地帯を作りに躊躇しますが、同種の施設には見られない緑豊かな外部空間を作り上げたことは設計者と施設運営者の連携と信頼を示すものです。外部空間は入居者にとって格好の癒しの空間でしょう。また、県内産の木材活用というコンセプトを徹底し、建築材料のみならずエネルギー源としての活用も図っています。さらに、屋根、床、外壁および開口部の断熱は高度に設計されており、エネルギー消費の面だけでなく、輻射環境等の温熱環境の面でも性能は高いと思われます。

今後、エネルギー消費量や室内環境などについて、具体的に評価し、その結果を公表することで、環境建築に人々の関心が集まることを期待します。

【こども園ひがしどおり】

本建物は、東通村が策定した「教育環境デザインひがしどおり 21」に基いた、幼小中一貫教育の入り口となる施設です。村内に分散していた施設を一つにまとめ、250名の園児を受け入れるため、河川を埋め立て、起伏を活かした敷地造成からはじまり、0-5歳児まで成長に応じた配棟計画が行われています。ホール棟と子育て支援室、そして幼児棟の屋根が、連なった切妻となり、園全体が景観を構成しています。

各棟は、地場の産材・製材の技術を駆使し、木造、あるいはRC造との混構造で構成されています。登り梁、ヒバの大木、ヒバのブロックアーチなど多彩な構造表現が見られ、園児に形への興味を誘発しています。構造のみならず、年齢に応じた成育に基づいた計画、長い冬を乗り切る温熱対策、幼稚園・保育園に関する法的問題の解決策など、意匠・技術とも高いレベルにあり、こどもたちとスタッフの姿からは、本建物に対する愛着が伝わってきます。

下北の技術と文化を継承し、こどもの健やかな成長を促す環境を形成している秀逸な作品として高く評価されました。

【まちの工房まどか】

障害者の福祉施設が周囲の住民と日常的に交流を図るということは、たやすく実現できるものではありません。交流を謳いながらも、実際には十分に機能していない事例が少なくないことを見れば、建築設計上の難しさについては、言を待たないところです。

障害福祉サービス事業所として建築されたこの施設は、「交流と学びの館」を標榜している通り、見事に周辺住民との交流が実現され、工房での障害者達の明るい笑顔との融合が実践されている、正に特筆すべき施設と言えましょう。木造平屋建ての比較的小規模な施設に凝縮された内部空間には、個々のコーナーの寸法的な「こぢんまりさ」を超えた感覚的な広がりを感じられ、障害者運営のカフェやベーカリーを訪れる人々に穏やかなひと時を提供しています。それらは設計者の障害者福祉に関する「思い」によって実現されているところが大きく、中央を突き抜けるように配されたアートギャラリー、要所に設けられた光庭、開放的なピロティなどにもその一端が窺えます。作品賞に相応しい秀作の一つと言えましょう。

特別賞

【花壇の立体長屋】

近年は、フローの時代からストックの時代と言われています。住宅についてもスクラップアンドビルドによる新築だけでなく、中古住宅をリノベートして有効活用していくことが求められてきています。

本作品は、築30年以上が経過したマンションの住戸を、家族のライフスタイルに合わせてリノベーションしたものです。新築とは異なり、さまざまな厳しい制約条件が存在す

る中で、旧来の最大公約数型のODKから、この家族らしい「文」を加えたパブリックとプライベートの分離とそれらの交わり・繋がりを有する、オンリーワンの居住空間へと再構成されています。十分な収納の確保をはじめとして住まいやすさには十分に配慮されており、また秀逸な照明の使い方をはじめとしてデザイン的にも非常に優れています。やや惜しむらくは、「長屋」らしい住戸と外部共用空間の再定義の工夫がもう少し見られると、さらに素晴らしい作品となったに違いありません。

とはいうものの、このような先駆的意欲的な作品は、東北建築賞特別賞にふさわしいものと認められます。

【えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）】

えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）は、本宮市民の健康づくりと地域福祉向上を図るための公共施設です。1階には高齢者をはじめとする多世代交流のためのコーナーや子育て支援のためのサロンといった毛色の異なるスペースが仕切りを設けずに存在しているものの、それぞれの空間の繋がりに無駄がなく、上手に表現されています。又、それらのスペースを確保するための構造設計には、苦心したであろう跡が随所に伺えます。更に、2階には、市役所事務室が配置されていますが、使用頻度が高い高齢者のことを考えた動線計画となっています。これらのことが、審査委員会において、高い評価を得ました。しかし、入口から入った時に、本施設が目玉ともいえる「こどもの家」への視界が階段によって遮られてしまう点や外観のデザインへの指摘がありました。

以上の評価に加えて、震災以降の福島県にある公共の子育て施設として、市民に評価されている点は、地域への貢献が高いことから、本施設は特別賞にふさわしい作品であると評価されました。

第34回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

坂口 大洋 仙台高等専門学校建築デザイン学科

委員

飯藤 将之 仙台高等専門学校建築デザイン学科

最知 正芳 東北工業大学建築学科

齋藤 俊克 日本大学工学部建築学科

増田 聡 東北大学大学院経済学研究科

相模 誓雄 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科

竹林 芳久 東北学院大学工学部環境建設工学科

新井 信幸 東北工業大学建築学科

西村 明男 (株) 佐藤総合計画東北事務所

藤原 薫 (株) 鈴木建築設計事務所

姥浦 道生 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

第34回東北建築賞（研究奨励賞）選考報告

選考委員長 堀 則男

本年度の研究奨励賞への応募論文は、権錫政氏の「マトリックス強度が超高強度高靱性セメント系複合材料の引張特性に与える影響」であり、まずは専門の近い選考委員4名による予備審査を行った。その結果、候補論文として残すこととなり、2013年10月30日に選考委員会を開催した。出席委員は4名で、審査対象論文、業績説明書、候補推薦書、及び欠席委員から提出された審査報告書に基づき審査を行った。

候補者は繊維補強セメント系複合材料を研究対象としており、これは、セメント系材料に混入させた繊維がひび割れ部分を架橋することによってひび割れの拡大を防いで分散させ、靱性を高めて引張性能を向上させることを目的としている。これにより建物の長寿命化、地震被害の最小化、高強度化による省資源などが期待でき、今後有望な建設材料である。

候補者はこれまでの一連の研究において、特に高強度、高靱性を目指した検討を行っている。審査対象論文においてはマトリックス強度（モルタルのみの圧縮強度）が引張特性（引張強度、引張強度時ひずみ、吸収エネルギー、ひずみ硬化現象など）に及ぼす影響が述べられ、靱性を高めるためにはマトリックス強度と使用繊維特性に最適なバランスがあることを示し、最適な材料設計方法につながる研究であることが評価された。

一方で実用上の問題、用語の定義不足、文法上の不備なども指摘されたが、今後、実用化及び新工法・新構法の開発、コンクリート構造物の靱性評価につながる研究であることを期待し、選考委員会では研究奨励賞に値するものとして決定した。

第24回東北建築作品発表会報告

常議員（社会文化）姥浦 道生

平成25年10月5日（土）に、せんだいメディアテーク7Fスタジオシアターにて第24回東北建築作品発表会が開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンして頂くものであり、作品賞の1次審査を兼ねると共に、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的としている。本年度は小規模建築物部門8作品、一般建築部門18作品の計26作品と、震災前の水準に戻った。また、震災復興に関連する建築作品の応募が増えた点も特徴的であった。発表会においては、まず若井正一支部長より挨拶があり、その後、坂口大洋選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき8分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行

われた。質疑応答も2分という短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、活気のある発表会となった。比較的参加者も多かったが、来年度においては、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めていきたい。

第33回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員（社会文化）姥浦 道生

第33回東北建築賞に関して、6月22日（土）～23日（日）に開催された「みちのくの風2013岩手」の一環として、表彰式および作品展示会が開催された。

東北建築賞の表彰式は、1日目午後会場に岩手県公会堂にて行われた。会場の部屋は、ほぼ満員の盛況ぶりであった。本年の東北建築賞作品賞の受賞は、作品賞6作品（特別賞該当なし）であった。表彰に先立ち、小山祐司作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われた。続いて若井支部長より各受賞者に賞状、賞杯が贈呈された。また、東北建築賞研究奨励賞部門は1論文の受賞があり、三辻研究奨励賞選考委員長より選考経過に関する報告が行われたのち、若井支部長から賞状が贈呈された。表彰後、受賞者からお礼の挨拶と受賞作品の紹介が行われ、またその後の懇親会では、受賞者を交えて交流が図られた。

本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々、岩手支所スタッフ、選考委員長はじめ選考委員、JIA東北支部の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

2013年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

審査委員長 須田 眞史

応募数は15作品であった。支部審査会は速水清孝（日本大学）、錦織真也（錦織真也建築設計事務所）、小杉学（東北工業大学）、恒松良純（秋田高専）・（審査当日欠席につき事前審査）、須田眞史（宮城学院女子大学）の審査委員で7/19に行われた。審査は、5作品を上限として支部入選作品を選出することを確認し、審査委員全員で全応募作品を審査し、各委員5票を自由に投票していくかたちで進められた。

投票の結果、8作品が得票した。衰退した町の活性化「(作品No.6) 紡ぐ町、受け継がれるマチ」、被災した集落の復興計画「(作品No.7) 流域を結ぶ木櫃」と「(作品No.8) 『杭』と『還土』の建築—つくること。こわされること。」がそれぞれ4票、津波被害の記憶継承「(作品No.2) AFTER LANDSCAPE」、都心の道の将来計画「(作品No.14) 道のはじまり」がそれぞれ

れ3票、その他に得票1票が3作品であった。まず得票1票の3作品について議論し、票を入れた委員いずれも積極的に推すわけではないという意見だったため、満場一致で選外とすることが確認された。次に得票数が4票の3作品および3票の2作品について、この5作品を支部入選作品とするかの議論が行われた。作品 No. 6、7 は町の既存資源を再構築して有効活用する点、作品 No. 8 は単純簡素な仕組みにより様々な場を提案している点、作品 No. 14 は緻密なリサーチにより将来あるべき姿を提案している点が評価された。また作品 No. 2 は、コンセプトが他の作品との対比で独創的である点が評価され、この5点が支部入選作品として選出された。応募作品は全体的に震災復興や街の活性化を題材としたものが多く、東北支部の地域性をよく表していた。

2013 年度東北支部研究報告会報告

常議員 (学術教育) 八十川 淳

2013 年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2013 岩手」は 2013 年 6 月 22 日 (土)・23 日 (日) の両日、盛岡市の岩手県公会堂を会場に開催された。

発表論文題数は計画系 39 題、構造系 44 題、合計 83 題であった。両日は 4 会場に分かれて、計画・環境・材料施工・構造の各分野において、活発な意見交換が行われた。初日の 22 日 (土) 午後には計画系招待講演「東北学からの証言—地域再生の手がかり」と題して、赤坂憲雄氏 (学習院大学 教授) による基調講演と、三宅 諭氏 (岩手大学 准教授) と倉原宗孝氏 (岩手県立大学 教授) を加えて 3 名の研究者によるパネルディスカッションが実施された。同日夕方には同公会堂において第 33 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会が開催された。2 日目の 23 日 (日) には、午前坂本知也氏 (太平洋セメント株式会社 生産部副部長) による構造系招待講演「大船渡工場の震災から復興まで道のりとセメント工場の役割」が実施された。また両日を通じて同公会堂の 1 階にて第 33 回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA 岩手東北支部作品展示ならびに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会が開催された。いずれの企画も盛況のうちに無事終了することができ、関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2013 年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員 (総務企画) 薛 松濤

日時：2013 年 5 月 11 日 (土) 15:30~16:15
場所：仙台メディアテーク 7 階スタジオシアター
出席者：150 名 (委任状含む)
資料：
日本建築学会東北支部年報第 33 号

2013 年度日本建築学会東北支部総会式次第

- 資料 1-1 : 2013 年 3 月 31 日現在 貸借対照表
- 資料 1-2 : 2012 年度 正味財産増減計算書
- 資料 1-3 : 2012 年度 収支計算書
- 資料 2 : 会計監査報告書
- 資料 3 : 2013 年度 収支予算書
- 資料 4 : 日本建築学会東北支部規程の改正 (案)

薛松濤常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者 41 名、委任状 109 通、合計 150 名の確認があり、東北支部会員 1,163 名の 1/30 (38 名) 以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

若井正一支部長による挨拶があり、今年度の総会通常通りに開催できたこと、各種事業も通常業務に戻りつつあることなどが報告された。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、佐藤慎也氏及び小地沢将之氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、若井正一支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2012 年度事業及び会計に関する件

1) 2012 年度事業

西脇智哉常議員より、支部年報 16~17 ページの「2012 年度事業報告」に基づき、2012 年度事業内容が報告された。

2) 2012 年度収支決算

佐々木健二常議員より、資料 1-1「貸借対照表」、資料 1-2「正味財産増減計算書」、資料 1-3「収支計算書」に基づき、2012 年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

堀 則男支部監事より、資料 2「会計監査報告書」の通り、2012 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

以上 2012 年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 2013 年度事業及び会計に関する件

1) 2013 年度事業計画 (案)

速水清孝常議員より、支部年報 18~19 ページの「2013 年度事業計画 (案)」に基づき、2013 年度事業計画案が説明された。

2) 2013 年度収支予算 (案)

佐々木健二常議員より、資料 3「収支予算書」が説明された。

特別な問題指摘もなく、原案通り承認された。

(3) 支部規定の改正

安部信行常議員によって支部規定の改正の説明があり、本部よりのものであり、そのまま改正すると結論となった。ただし、文面の文章の正しさに質問があり、本部に確認することになった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2013年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

日本建築学会作品選集 2014 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 荻谷 哲朗

本年度の応募作品は昨年度より多い16作品であった。震災関連の仮設建築のものも4点あり、期限付きの建築許可がおりたものであった。建築として扱うかどうか問題とされたが、1作品のみ芸術性と造形性が高いとみなされ、本部選考にSランクとして提出され選定された。7月1日、応募16作品の中から現地審査対象作品の投票による絞り込みが行われ、秋田1作品、宮城1作品、福島2作品が選出された。7月12日に秋田県、8月20日と21日に宮城、福島の作品について現地調査を行い、8月21日に支部最終審査が行われ、住宅系の作品が今年度は選ばれず、本部推薦作品として5作品が選定された。最終的には、本部選考で、1作品が写真ではクオリティが伝わりにくい改修でインパクトが低かったために落選したが、堅実に推薦作品を選定したために、他の4作品は採択となった。建築の独自性や創造性についての提案が感じられる事が本部選考通過には重要であることが示されたと言えるであろう。

《委員》

部会長 荻谷 哲朗 (秋田県立大学)
委員 大沼 正寛 (東北工業大学)
柴崎 恭介 (会津大学短期大学部)
三浦 哲 (三浦設計)
二宮 正一 (二宮設計事務所)
渡辺 敏男 (盛岡設計同人)
加藤 彰 (カトー建築設計事務所)

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

部会長 相模 誓雄

今年度は、主に(1)歴史的建築の保存、(2)文化財ドクター派遣事業、(3)宮城県ヘリテージマネージャー養成講習会、(4)近現代建築資料全国調査の活動を行った。これらに関連して、2回の部会会議を開催した。

(1)歴史的建築の保存は、盛岡市の近代和風建築「大清水多賀」の取り壊し、マンション建設に対して、部会で意見書を作成、保存要望書を支部長から大和ハウス工業株式会社へ提出したが、残念ながら10月に取り壊された。(2)今年度で3年目になる文化財ドクター派遣事業(文化庁委託事業)は、被災した歴史的建築の復旧のための技術支援を中心に、岩手県、宮城県、福島県の計21物件を調査し、復旧に向けての提案を行った。なお、本調査はJIAを中心に建築士会とも連携して進めた。また、県毎に担当者を決め、東日本大震災における災害特別調査研究報告書を執筆した。(3)宮城県ヘリテージマネージャー養成講習会は、県文化財保護課とともに建築士会に協力して企画し、7名の部会員が講師を務めた。(4)近現代建築資料全国調査は、本年度、本会歴史・意匠委員会が文化庁から受託したもので、8名の部会員が東北地区幹事、調査員として参加し、調査を行った。その成果を3月に報告し、報告書にまとめた。その内容については、来年度の本会大会においてパネルディスカッションが行われる予定である。

今年度は、歴史的建築及び資料の保存、活用、復旧に関して様々な活動を行った。これらは、大災害や転換期における社会的な必要性に基づいた活動であるが、部会員の諸事情もあり、思うように捗らないこともあった。他の団体や機関との連携も欠かせない。来年度は、宮城県近代和風建築総合調査を受託する予定である。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

平成25年度の建築計画部会の活動に関しては、今年度は見学会や講演会などの企画・事業は行っていないが、昨年度計画系三部会の企画主体となって実施された平成24年度日本建築学会特色ある支部事業「東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会：震災まで 震災後」の三回のシンポジウムの記録集の作成を行った。当日のシンポジウムにおいても毎回示唆に富むプレゼンテーションや活発な意見が交換さ

れたが、詳細な記録を再編集することにより各回で提示された課題がより明確となった。

また、部会のメンバーの多くは、東日本大震災の復興支援に東奔西走し様々な場面において尽力している。紙面の関係上一例に留めるが、日本建築学会関係においても、日本建築学会主催の平成26年3月11日、12日建築会館にて行われた東日本大震災三周年シンポジウムは小野田先生（東北大学）浦部先生（日本大学）石井先生（東北工業大学）等が中心に関わり、日本建築学会を中心とする8学会合同の東日本大震災被害報告書建築計画編のとりまとめは石井先生（前掲）、新井先生（東北工業大学）、坂口（仙台高専）が関わっている。これら以外にも部会メンバーの多くが、政府の各省庁や被災自治体の復興支援、民間ベースの支援業務など様々な側面で尽力している。同時に部会メンバー間の情報共有の場は活発に行われている。

発災から三年が経過し、災害公営住宅の完成、入居などが開始され復興も新たなステージに向かいつつある一方、様々な構造的課題と長期的な復興が求められている福島等の現状の両面が存在し、それぞれへの思考と対応が求められている。同時に次なる災害への備えを導く、知見を集約し整理する段階でもある。パラレルに展開する課題の幾つかを次年度は、具体的な事業企画として実現を予定している。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

地方計画部会では、東日本大震災の発生以来、震災復興・復興に直接・間接に関与している研究者や実務家、さらにその進展に関心を持つ支部会員に対する情報提供とともに、勉強会や共同研究の機会を準備してきた。特に、他学協会（土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会、東北地域づくり協会、日本コンクリート工学会、日本都市計画学会）と建築学会の東北支部が連携するなかで設置された「東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会」は、建築・土木・都市計画の領域を横断する初めての学際的組織の試みといえるかも知れない。

その第4部門（土木計画・都市計画）には、複数の地方計画部会員も参加して活動を続け、地元での被災状況・復旧過程に関する研究成果が『東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会報告書』にまとめられた。大部なためDVD形式での公表となったが、災害避難（生活）から、応急対応と災害復旧、復興計画と事業までを包摂した幅広いテーマが議論されている。東日本大震災からの初期復興段階での情報が網羅的に整理された成果であり、関心のある方は下記サイトを確認頂きたい。

http://www.i-1.co.jp/jsce_shinsai/dvd_index.html

発災後4年を経て、復興事業は着工段階を過ぎ、今後数年

以内の完成が目指されている。例えば、2013年から始まった「みやぎボイス（日本建築家協会他による）」では、2014年度のテーマを「復興住宅のこえ」として、復興住宅に関わる3者「住宅のつくり手、福祉・教育領域等の支え手、地域のない手」の交流の場を企画した。今後は、このようなプラットフォームの拡充も求められよう。

<http://www.jia-tohoku.org/blog/miyagi/entry-382.html>

(4) 構造部会

部会長 木村 祥裕

2011年の東北地方太平洋沖地震により被災した建築物の多くは、改築及び改修が行われつつあります。今回の地震では、RC柱に鉄骨屋根トラスが載っている「鉄骨置屋根構造を有する体育館」において、屋根とRC柱柱頭の接合部で甚大な被害を生じたことから、東北地方発の建築研究開発コンソーシアムの研究会「鉄骨置屋根構造の耐震に関する研究」（委員長：柴田明徳 東北大学名誉教授）を昨年度に立ち上げ、活動してきました。9月にはシンポジウムを開催し、このような鉄骨置屋根構造における損傷メカニズムに関する報告があり、活発な議論が行われました。さらに、この1年間の活動で、耐震診断法や補強方法を検討してきました。今後、これらの手法を確立していく予定です。

また、上記のような体育館の被害を受け、補強した石巻市立体育館を12/20に東北大学、東北工業大学、仙台高等専門学校教員の学生らの有志により、見学しました。当日、石巻市は大雪だったため、予定していたもう一か所にはたどり着けませんでした。補強方針や実際の補強を見学でき、学生には実際の建築構造に触れることができた良い機会となったことから、このような見学会を随時開催していくなど、実際の建築構造に触れ合う機会を設けていきたいと考えています。

(5) 環境工学部会

部会長 菅原 正則

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と地元のニーズへの配慮に留意しつつ部会活動を行っている。その主な内容は、部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催である。空気調和・衛生工学会東北支部をはじめ関連他団体との共催や、日本建築士会東北支部と相互に活動情報の交換を図っている。東日本大震災発生以降、震災関連住宅における健康影響の低減対策に関する研究WGおよび放射線環境WGを設置し、環境調査や改善策の提案に精力的に取り組んでいる。

今年度の部会活動を列挙すると下記の通りである。

1. 部会および勉強会の開催

①7/12 第1回部会、参加者12名

②10/11 第2回部会および勉強会「後藤研究室の研究紹介」、参加者10名

③1/29 第3回部会および勉強会「設計現場に於ける環境配慮設計への取組みと、一事例としての採光技術開発について」、参加者11名

2. 研究会などの開催

①7/23 公開講演会「津波からの環境の再生」、参加者42名

②9/25 見学会「仙台市地下鉄東西線建設現場視察」、参加者22名

③11/20 講演会「藻類バイオマスから新しい燃料の創出とその成果を震災復興に!!」、参加者70名

④1/21 見学会「ロハスの家」、参加者20名

⑤2/21 第62回東北環境設備研究会「女性の視点からのトイレ in 仙台 Part 2」、参加者62名

⑥3/15 シンポジウム「放射性物質汚染と市民目線の除染方法について」、参加者76名

⑦3/18 第63回東北環境設備研究会「北海道での寒冷地・積雪地の建築環境・設備分野の研究から、東北のこれからを考える」、参加者約70名

(6) 材料部会

部会長 西脇 智哉

2013年度は支部研究補助費をいただき、「津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究」に取り組んだ。

第1回部会は5月29日に開催し、今年度取り組む調査研究の具体的な実施項目などについて議論した。その結果、実際に津波被害を受けた建築物について調査を行うことや、施工部会に対しても情報提供をお願いすることなどが確認された。具体的には、解体を目前に控えた相馬市原釜地方卸売場や、東松島市などの住宅基礎コンクリートを対象にコアを採取し、塩分量の分析を行って津波による影響を調査することとした。

第2回部会は11月15日に開催され、それに先立つ10月31日に太平洋セメント(株)大船渡工場において工場見学が行われた。これは、「みちのくの風 2013 いわて」において行われた構造系招待講演「大船渡工場の震災から復興までの道のりとセメント工場の役割」において、津波被害とがれき処理という今年度部会研究テーマとも極めて関連性が高い取り組みが行われていることから材料部会として依頼したものである。見学会には学生を含む約30名が参加し、震災時の状況や復興に当たった取り組み、処理プラントの説明と見学が行われた。第2回の部会では、6月4日に実施した相馬市原釜地方卸売場や、別途進められている住宅基礎の調査・分析の進捗状況の報告や、上記見学会の報告が行われた。

第3回部会は年が明けた1月29日に開催された。これまでの調査・分析の進捗状況のほか、田中礼治先生(東北工業大学)から情報をいただいた仙台市・荒浜小学校の調査について議論した。また、施工部会からは津波被害を受けた大規模RC構造物における塩分の浸透状況について貴重な情報を提供いただいた。

第4回部会は3月18日に開催された。これまでの調査結果を踏まえて、取り纏めと公表方法について議論し、報告書を作成するよりも一般がアクセスしやすい本会年次大会などに投稿する方向で準備することが確認された。

(7) 施工部会

部会長 笠松 富二夫

大震災から3年目に入る今年度は、委員各社のその後の中期的な震災復興・復旧工事の事例紹介をしてもらい、それに対して意見交換を続けながら今後取り組む研究活動テーマを探していくこととした。活動としては予定していた3回の定例会と2回の現場見学会を実施した。その概要を記すと

第1回定例会平成23年度以降の震災復旧工事例2件の紹介があり、さらに復旧工事を進める上での問題点(労務・資材の調達、PC版への設計変更による問題、監理技術者不足など)での意見交換を行った。(H25.5.15)

第2回定例会施工現場における深刻な問題について各社からの紹介があった。①被害沿岸部での労務宿舍の現状 ②PC版や鉄筋の価格高騰 ③入札不調の件 ④施工現場における消費増税の影響など(H25.12.11)

第3回定例会材料部会で取り組んでいる「津波を受けたRC建物の品質に及ぼす塩害の影響調査」についての報告とそれに対する意見交換(H26.2.20)

第1回現場見学会松島瑞巖寺本堂の大修理現場(H25.7.23)

第2回現場見学会東北大学医学部3号館耐震改修工事現場(H26.3.11)

また今年度で3回目となる市内大学大学院での「出前授業」も今年度計7回開催され、各委員が業務に忙しい中調整をし、現場見学4回、講義3回実施するなど益々充実したものになってきている。今後も本部会ならではの事業活動を委員各位の絶大なる協力を得て更に進めていきたい。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2013年度の活動としては、7月に部会を開催したほか、デザインウィーク in せんだい2013(以下、DWS)で開催された日本建築家協会(以下、JIA)東北支部宮城地域会主催のイベントに共催として参加した。また、特色ある支部活動企画の

助成に、教育プラットフォームの構築に関する内容で応募し、2014年度に助成が決定された。

まず部会については、2013年7月31日(水)に事務局にて開催し、6名の委員が出席した。主な議題は、支部研究報告会におけるデザイン発表会の創設についてであった。創設にあたっては、参加費や発表形式の想定、参加登録期限等の設定など、実務的な内容のほか、デザイン発表会に参加するためのモチベーションを如何にして保てるかなど、様々な意見が出た。引き続き議論を重ね、2015年度には実施できるよう詳細を詰める。

次にDWSでのイベントであるが、JIA東北建築学生賞を受賞した作品に対して、建材メーカーや住設メーカーが商品提案をするという形で1年前より行われている企画に共催として参加することとなった。「想像から創造へ～学生作品への技術提案」というタイトルで、2013年12月6日(金)に開催された。出席者は41名で、学生には貴重な機会として好評価を受けた。

最後に、特色ある支部活動助成については、「東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた、教育機関と設計実務界をつなぐ教育プラットフォームの構築」というタイトルで学会本部に応募し、全国から8件の応募があった中でほぼ満額が認められる結果となった。建築デザイン発表会の創設、JIAとの協働、各大学・高専のカリキュラムに関する情報共有、といった内容が評価された。

2014年度は、助成事業を中心に活動を進め、デザイン発表会の創設に向けた準備や設計実務界との教育プラットフォームづくりに努めていく予定である。

(9) 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2013年度は、前年度までに引き続き、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被害に関する調査報告を行った。成果は東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会の調査報告会(福島・宮城・岩手)や震災対策技術展宮城(仙台)で報告するとともに、8学会共同の東日本大震災合同調査報告書にまとめた。

さらに、東北地方太平洋沖地震において東北地方で観測された建物・地盤系の観測記録をとりまとめ、データ集として東北支部から発刊した。

(報告：大野晋 東北大学)

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2013年度の青森支所の活動状況について報告いたします。6月5日に幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画や収支予算等を議決・承認しました。その後も幹事会を開催し、事業の実施に向けて細部を検討してまいりましたが、本年度はスケジュールの調整がつかず、講習会は開催できませんでした。6月25日に開催した「全員協議会」では、幹事会で議決された事業計画を報告し、全員に協力をお願いするとともに、親睦を深めました。また、『建築見学ツアーと出会い』と題し、有限会社設計工房らいんあーと代表の飯田善之氏による講演会が開かれ、フランクロイドライト氏設計の「自由学園、明日館」見学談、建築家・伊礼智事務所訪問の際のエピソードなどをご講演いただきました。当支所幹事であり、(株)カトー建築設計事務所代表取締役社長の加藤彰氏が2013年秋の黄綬褒章を受章されました。受賞理由は、多年にわたり、国土交通関係業務に精励され、ことに建築士としての功績や建築設計監理業務に貢献されたことが評価されたものです。



10月12日、13日に、2013年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

青森支所では、今後も地域にねぎした活動で貢献してまいりたいと思います。



秋田支所

秋田支所長 山口 邦雄

秋田支所主催の秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクールが、今年で42回目となり、参加校6校、参加生徒32名、応募13作品で盛大に行われました。

このコンクールは、建築学会東北支部のみならず、秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、秋田魁新報社、秋田県の建築士会、建築家協会、建築士事務所協会、建設業協会の関係諸団体から後援を受けて行っており、①構想及び平面計画、②造形及び表現力、③全体的なまとまり、④努力度を基準に審査を行い、優秀作品に各団体名による賞を授与しています。今年度の最優秀賞（秋田県知事賞）には、秋田県の少子化対策として「医療と教育」の充実を図るため、安心して産み育てられる環境づくりを提案した秋田県立秋田工業高等学校の生徒3人による作品『I see the light ～輝く未来～ 秋田子ども病院 支援学校・療育研究センター併設』が選ばれました。

応募の全作品は、秋田駅に隣接する秋田市民交流プラザ・アルヴェ 1Fに3日間公開展示され、最終日の表彰式においては最優秀賞の受賞者からのスピーチの機会をもうけ、表彰式終了後には審査員がそれぞれの作品を前に生徒に個別講評を行うなど、工夫もこらしています。

この他にも、秋田支所では建築学会東北建築賞・作品賞のパネルと全国大学・高専卒業設計作品の同時展示、秋田県建築士事務所協会主催による第27回「秋田の住宅」コンクールの後援と審査員の派遣などを通し、関係各団体との連携を深めています。

岩手支所

岩手支所長 澤村 正廣

2013年度の岩手支所の活動状況について報告します。今年度は、盛岡市の主催で例年実施しております「盛岡市都市景観シンポジウム」が11月15日（金）に開催され、当支所は後援として参加いたしました。

本シンポジウムは、盛岡市固有の景観を守り、創り、育てるために「まちづくりはひとづくり」との理念から、市民とともに景観を考える場として1980年度から開催しており、今年度で37回となりました。今回のシンポジウムでは、身近な生活景観を含めた地域で育てる景観からのまちづくりについて、「賑わいのある街の風景～旧奥州街道境界から～」をテーマに、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

なお、支部事業であります「みちのくの風2013岩手」が6月に盛岡市で開催され、多くの参加者を岩手にお迎えできました。

岩手支所で例年実施している「東北建築賞受賞作品展示会」は、支部事業の「みちのくの風2013岩手」の中で「JIA岩手東北支部作品展示」、「法人会員技術報告建築作品展示会」との合同作品展として開催をさせていただきました。今後とも岩手支所では、地域で開催する建築関係のイベント等に対し共催や後援を行うとともに、機会を捉えて建築学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えています。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

昨年度見送った「親と子の建築講座」を開催した。ご協力頂いたJIAで学校側と調整頂き、建て替え間もない校舎で関心が高まっている建築の情報を伝え、親にもその話を伝えてもらう意図により、以下の通り実施した。

日時：2013年9月20日14:00～15:30、授業2コマ

場所：山形県西川町西川小学校

5年生2クラス約50名および教員その他の参加を得た。小学校高学年を対象とするのは初めてで、どのくらい理解してもらえるか不安もあったが、結果的には活発な質疑応答となった。

1コマ目は「西川小学校のできるまで」、プロポーザル方式で決まった小学校の案を、担当した安達和之氏（羽田設計事務所）が当初案からの設計変更などを交えて解説する授業で、



クイズ形式を盛り込むなど、質問、意見が多様で、プロポーザルの雰囲気良かったという指摘もあった。2コマ目は「まちの建築・目印建築」を相羽康郎(東北芸術工科大学)が解説した。地の建築として街並みを形成してきた伝統的な構法の建物に対し、近代建築は図の建築としてRCの箱から鉄とガラスの箱へ、さらに自由な形の目立つ作品として創作された。地の建物が揃う街並みは失われたが、近年現代建築による街並み形成事例が出現した。これらの街並み写真を比較して最後にどんな街並みのまちに住みたいか挙手を求めた。ゆとり教育の成果か、質問・意見へ積極的な挙手もあって鋭い指摘に驚かされた。



プロポーザルコンペのパス



住みたい街並みへの挙手

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、歴史的建造物の保全活用の専門家(ヘリテージマネージャー)の育成、派遣、活用等を行いました。

平成26年2月5日に開催した『建築士事務所キャンペーン』では、「技術セミナー」として、住宅・建築及び震災復旧復興に関わる最新の技術、材料、広報等のプレゼンテーションや「住宅相談会」を実施し、これから住宅を新築・改修する方に対し、一級建築士、弁護士、宅地建物取引主任者が相談に応じました。

また、「講演会」では隈研吾氏から「場所の力」と題した講演をいただき、場所が持つポテンシャルを生かした建築の力について理解を深めました。



隈研吾氏講演会

福島支所

福島支所長 古河 司

2013年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』の設立や建築関係団体との連携による『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第33回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。



東北建築賞受賞作品展示会

『第33回東北建築賞受賞作品展示会』については、2月18日から20日までの3日間、郡山市にて、「JIA福島2013作品展」及び「日本大学工学部卒業設計展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。

これら事業以外にも、日本大学工学部建築学科が開催したシンポジウムや手塚貴晴氏の講演会への協力など様々な活動を行いました。

大震災から3年を経過した今もなお、県内外で13万人を超える方々が仮設住宅等での厳しい生活を余儀なくされておりますが、復興の槌音が各地で聞こえるようになり、少しずつではありますが、福島の将来が見えてまいりました。

今後も学術的な研究等を福島の復興・再生に向けて広く還元、そして発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動、更なる事業の充実に努めてまいります。

支部役員会から

常議員（総務企画）後藤 伴延

本年度から名称が変更され、これまでの常議員会が支部役員会と呼ばれることとなった。支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月・7月・9月・12月・2月（本稿執筆時点では実施されていないが、3月にも開催予定）に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。これらの議事録は、東北支部のウェブサイトにおいて一般公開されている。また、支部役員会の開催に際しては、Skypeを介しての参加も可能としており、出席者の増加と旅費節減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割と果している。2013年度は「みちのくの風 2013 岩手」と題して、6月22日（土）・23日（日）を会期に、岩手県公会堂を会場に開催された。22日において、赤坂憲雄氏（学習院大学）をお招きし、「東北学からの証言—地域再生の手がかり」と題してご講演をいただき、続いて、三宅諭氏（岩手大学）と倉原宗孝氏（岩手県立大学）も加わってパネルディスカッションが行われた。さらに23日には、坂本智也氏（太平洋セメント株式会社）をお招きし、「大船渡工場の震災から復興までの道のりとセメント工場の役割」と題してご講演をいただいた。

この他、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施し、みちのくの風、東北支部災害委員会と災害調査連絡会の活動、日本建築学会文化賞の推薦などについて報告と意見交換を行った。また、2月には本会の吉野博会長との懇談会を開催し、各研究部会長も出席して意見交換を行った。

2013年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

【5月】

新旧役員の引継ぎ、年間行事予定、支部総会について、みちのくの風 2013 岩手について、2013年度支部長代行者について、日本建築学会東北支部災害調査委員会の継続と津波 WG の設置について、支部会計について

【7月】

理事会報告、2013年度支部総会・災害報告会の報告ならびに報告書の在庫報告、会計報告、みちのくの風 2013 岩手開催報告、作品選集 2014 応募作品と支部選考部会の審査経過について、共催依頼ならびに後援依頼承認の報告、災害委員会市民企画提出報告、2013年度日本建築学会設計競技 支部への応募結果の報告、和田前会長と本部事務局職員による被災地視察の報告、みちのくの風 2014 の開催地と会場について、支部の検討課題について、東北工業大学からの後援依頼について、日本建築学会教育賞の推薦依頼について

【9月】

理事会・支部長会議報告、会計報告、2013年度日本建築学会設計競技支部審査の結果報告、「作品選集 2014」支部審査報告、第34回東北建築賞への応募報告と第24回東北建築作品発表会について、第15期代議員および次期支部役員の立候補・推薦について、「特色ある支部活動」企画募集について、大清水多賀本店保存要望書提出報告、みちのくの風 2014 福島について、2014年度日本建築学会大賞業績候補の推薦について、2014年度日本建築学会文化賞候補業績の推薦について

【12月】

仙台市で開催される第3回国連防災世界会議について、理事会・支部長会議報告、代議員・支部役員候補者届出報告、第24回東北建築作品発表会の報告、第34回東北建築賞研究奨励賞選考報告、会計報告、「作品選集 2014」全国審査の結果報告、「若手会員を中心とした企画」の進捗状況報告、事務局 2014年度雇用契約更新の報告、青森支所より日本建築学会文化賞候補業績の推薦報告、2014年度支部総会の日程・会場・担当者・付随行事について、みちのくの風 2014 福島について、2014年度支部研究報告会論文募集スケジュールと募集要項について、2014年度予算（案）について、全国・大学高専卒業設計展示会の会場と予算について、作品選集次期選考委員の選出について、2014年度設計競技支部審査員の選出について、支部年報第34号の発刊について、2014年度支部研究補助費の申請について

【2月】

理事会報告、会計報告、2014年度大賞候補業績推薦書提出報告、2014年度研究補助費申請報告、第34回東北建築賞作品賞の選考報告、後援依頼（2件）承諾の報告、災害調査報告書の頒布報告、年報の編集者交代の報告、第3回国連防災世界会議の進捗状況について、みちのくの風 2014 福島について、2014年度支部総会の付随行事について、2014年度「建築文化事業」開催について、秋田県立大学からの後援依頼について

支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2013年度 (2013年6月～2014年5月)	2014年度 (2014年6月～2015年5月)
支部長	若井正一 (日大)	源栄正人 (東北大)
総務企画	薛 松濤 (東北工大) 速水 清孝 (日大) 後藤伴延 (東北大) 小地沢将之 (仙台高専)	後藤伴延 (東北大) 小地沢将之 (仙台高専) 有川 智 (東北工大) サンジェイ・パリーク (日大)
社会文化	渡辺敏男 (盛岡設計同人) 姥浦道生 (東北大) 佐藤慎也 (山形大)	佐藤慎也 (山形大) 手島浩之 (設計集団/UAPP) 小林 光 (東北大)
学術教育	八十川 淳 (東北文化学園大) 許 雷 (東北工大) 日比野 巧 (日大)	許 雷 (東北工大) 日比野 巧 (日大) 川村廣則 (東北文化学園大)
会計会員	笹渕優樹 (仙台市) 佐藤大作 (JR 東日本)	笹渕優樹 (仙台市) 佐藤大作 (JR 東日本)
図書情報	クアトラ カロス (秋田県立大) 陳 沛山 (八戸工大)	荻谷哲郎 (秋田県立大) 宮腰直幸 (八戸工大)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪	伊藤章子 瀧 美雪

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	木村祥裕 (東北大学教授)
材料部会	西脇智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口大洋 (仙台高等専門学校准教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	相模誓雄 (宮城大学助教)
施工部会	最知正芳 (東北工業大学教授)
環境工学部会	菅原正則 (宮城教育大学准教授)
建築デザイン教育部会	櫻井一弥 (東北学院大学准教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2014年4月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	51名
正会員 (個人)	1,186名
正会員 (法人)	34法人
準会員	24名
賛助会員	7法人

東北支部監事

2013年6月～2014年5月
堀 則男 (東北工業大学)
佐々木健二 (JR 東日本)

2014年6月～2015年5月
佐々木健二 (JR 東日本)
鈴木 博之 (仙台市)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2013年4月 ～ 2015年3月	石田 壽一 (東北大学教授) 三浦 金作 (日本大学教授) 横山直樹 (仙台市監査事務局工事監査課課長)
2014年4月 ～ 2016年3月	木村 祥裕 (東北大学教授) 濱田 幸雄 (日本大学教授)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科准教授)
岩手支所	勝又賢人 (岩手県土木整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	古河 司 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2013 年 4 月 1 日
2013 年度事業報告	至 2014 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総 会	1. 2012 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2013 年度事業計画・予算案	2013 年 5 月 11 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (2)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1) 設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 笹澤正善、千葉正裕、前田匡樹 (新任) 三浦金作、石田壽一、横山直樹	2012 年 4 月～2014 年 3 月 2013 年 4 月～2015 年 3 月
支部長改選	(留任) 若井正一	2012 年 6 月～2014 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、Buntara S.Gan (留任) 姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤、速水清孝、八十川淳、渡辺敏男、陳 沛山※ (新任) 後藤伴延、小地沢将之、佐藤慎也、許 雷、日比野巧 笹渕優樹、佐藤大作	2011 年 6 月～2013 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月 ※ 2013 年 6 月～2014 年 5 月 2013 年 6 月～2015 年 5 月
企画運営委員	なし	
支部 監 事	堀 則男、佐々木健二	2013 年 6 月～2014 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 薛 松濤 構造技術における新しい試み 材 料 : 西脇智哉 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 相模誓雄 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 菅原正則 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 笠松富二夫 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 材料部会 (研究代表者 西脇智哉)	2013 年 4 月～2014 年 3 月
支部研究報告会	2013 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 76 号計画系・構造系刊行 発表題目 83 題	2013 年 6 月 22 日～23 日 岩手県公会堂
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 24 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 34 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2013 岩手 ・支部研究報告会と招待講演会 ・第 33 回東北建築賞表彰式	2013 年 10 月 5 日 2013 年 10 月 5 日 2013 年 10 月～2014 年 1 月 2013 年 6 月 22 日～23 日 岩手県公会堂

	<ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 岩手等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 親と子の建築講座（山形支所） 2) 第33回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市 	<p>2013年9月20日 2013年6月～2014年2月</p>
研究部会主催	<ul style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催 	
表彰	<ul style="list-style-type: none"> 1. 第33回東北建築賞作品賞部門 作品賞6点、研究奨励賞部門1点 2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名 3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員7名、法人会員1社 賛助会員1社 	<p>2013年6月22日 岩手県公会堂 2013年5月11日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第33回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第42回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の建築講座 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2013年7月 2013年10月12日～13日</p> <p>2013年7月24日～26日 2014年2月8日</p> <p>2013年6月22日～23日</p> <p>2013年9月20日</p> <p>2013年2月18日～20日</p>
刊行活動	<p>支部年報第33号発刊 東北支部研究報告集第76号計画系・構造系発刊 東北建築作品集（第24号）発行</p>	<p>2013年5月11日 2013年6月22日 2013年10月5日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	なし	
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	2013年7月～2013年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する ・日本建築学会「作品選集2014」東北支部選考部会 	<p>2013年7月19日 支部事務所会議室 2013年6月～9月 支部事務所会議室</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2014 年 4 月 1 日
2014 年度事業計画 (案)	至 2015 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総 会	1. 2013 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2014 年度事業計画・予算案	2014 年 5 月 17 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (3)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建 築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 石田壽一、三浦金作、横山直樹 (新任) 木村祥裕、濱田幸雄	2013 年 4 月～2015 年 3 月 2014 年 4 月～2016 年 3 月
支部長改選	(退任) 若井正一 (新任) 源栄正人	2012 年 6 月～2014 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤、速水清孝、 八十川淳、渡辺敏男・陳 沛山※ (留任) 小地沢将之、後藤伴延、許 雷、笹渕優樹、佐藤真也 佐藤大作、陳 沛山、日比野巧 (新任) 有川 智、苅谷哲朗、川村廣則、小林 光、宮腰直幸 サンジェイ・パリーク、手島浩之	2012 年 6 月～2014 年 5 月 ※ 2013 年 5 月～2014 年 5 月 2013 年 6 月～2015 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	佐々木健二、鈴木博之	2014 年 6 月～2015 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 西脇智哉 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 相模誓雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 菅原正則 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・大規模災害時の停電による空調・給排水衛生設備の凍結対策技術 環境工学部会 (研究代表者 菅原正則)	2014 年 4 月～2015 年 3 月
特色ある支部活動採択事業	・東北地方における建築デザイン教育の質的向上に向けた 教育機関と設計実務をつなぐ教育プラットフォームの構築 (研究代表者 櫻井一弥)	2014 年 4 月～2015 年 3 月
支部研究報告会	2014 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 77 号計画系・構造系刊行 発表題目 93 題	2014 年 6 月 21 日～22 日 日本大学工学部

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第25回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第35回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2014 福島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演 ・会長支部訪問と基調講演会 ・第34回東北建築賞表彰式 ・第34回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 福島等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>2) 第34回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2014年10月 2014年9月20日 2014年10月～2015年1月</p> <p>2014年6月21日～22日 日本大学工学部</p> <p>2014年10月 2014年6月～2015年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第34回東北建築賞作品賞部門 作品賞6点、特別賞2点 研究奨励賞 1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人会員10社</p>	<p>2014年6月21日 日本大学工学部</p> <p>2014年5月17日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第34回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第44回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第34回東北建築賞作品展示会：郡山市(日本大学) ・第34回東北建築賞作品展示会：郡山市(郡山ビックアイ) 	<p>2014年7月 2014年10月 2015年2月</p> <p>2014年7月 2015年2月</p> <p>2014年11月</p> <p>2015年2月 2014年9月</p> <p>2014年6月 2015年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第34号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第77号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第25号)発行</p>	<p>2014年5月17日 2014年6月21日 2014年9月20日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	「建築物荷重指針」改定講習会	2015年2月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2014年6月～2014年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「建築のいのち」 ・日本建築学会「作品選集2015」東北支部選考部会 	<p>2014年7月 支部事務所会議室</p> <p>2014年6月～9月 支部事務所会議室</p>

法人・賛助会員

(株)阿部重組	(株)昴設計
阿部建設(株)	千田総兵衛建築事務所
(株)関・空間設計	(株)本間利雄設計事務所+
鹿島建設(株)	地域環境計画研究室
(株)久米設計	東日本旅客鉄道(株)
(株)熊谷組	東北電力(株)
清水建設(株)	一般社団法人
仙建工業(株)	東北空気調和衛生工事業協会
大成建設(株)	(株)工藤組
(株)竹中工務店	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	日刊建設産業新聞社
(株)梓設計	八戸工業大学
東日本興業(株)	

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 34 号
2014 年 5 月 17 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） クアドラ・カルロス
